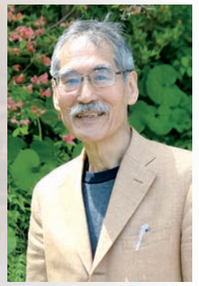
遠野文化研究センターだより　とおのじん －其の６－

遠野人

遠野文化研究センターの活動に興味を持っていただけるような情報を、６月号からお届けしています。
今月は、遠野遺産です。

★筆者　木瀬（きせ）公二（こうじ）

遠野文化研究センター研究員、朝日新聞・社友記者。1948年東京生まれ。73年朝日新聞入社。元盛岡総局長。08年に達曽部に移住。著書に遠野物語関連の『119のはなし』など。



死者を丁寧に送る湧水（わくみず）の住人たち

東日本大震災の翌年、我が家の近くで不幸があった。隣組が集まり、てきぱきと葬儀の段取りを決めていった。新参者の私は、ただボーッと言われたことをこなし、気が付くと葬列の先頭で、灯籠を持って歩いていた。棺を担ぐ人たちは背中に「陸尺（ろくしゃく）」と染め抜いた半纏を着て、腰にはわらじを下げ、後に続いてきた。長い隊列になっていた。地域全体で、死者を丁寧に送ろうとしていることが分かった。

その年のお盆に、背中に「南無阿弥陀仏」と染め抜いた半纏を着た男たちがその家にやってきた。太鼓と笛と鉦（かね）を奏で供養を始めた。地域の「念仏衆」だという。ここに来る前にお寺とお墓でも供養をしてきたと言った。死者が男性の場合は「富士山」という謡で、女性の場合は「箱根山」だと教えてくれた。練習はしないそうで「死者が出るのを待っているような印象を与えるでしょ」と解説してくれた。死者が多い年は、夜明け近くまで念仏供養を続け、一人もいない年は、めでたきを祝ってお祭りをする。

葬儀といい初盆といい、死者に対する地域の向き合い方に、私はいたく感心した。これだけ丁寧に送られれば、死者は、残された家族を心配することもなく、どんなにか穏やかに逝けるだろうと、そこに身を置いた自分も安心したものだった。

「湧水念仏」が遠野遺産へ

その「湧水念仏」が今年、遠野遺産に認定された。自分たちの地区の宝物を後世に伝えてもらおうと市が始めた制度で、今年の７件を含めて157件になった。2007年の制定時には、遠野物語の119話と同じ数だけ登録されるだろうか、と心配する声が出ていたが、たった６年で超えてしまった。

まだ増えるのだろうか、と聞いた私に「それほど遠くないうちに遠野物語拾遺（299話）に届くと思います」と、この制度を担当する文化研究センター学芸員の佐藤直紀（なおき）さんは自信をもって答えた。町を歩いていて、登録されていない神社などをよく見かけるからだと言った。

念仏供養をする湧水地区の「念仏衆」

秋田県出身で2016年に入庁した佐藤さんは、移り住んでまず、遠野の神社の多さに驚いた。そして約65団体もが活動する郷土芸能団体の多さにもびっくりした。「実家周辺では後継者がいなくて消えていっているのに、これだけ継続しているのはすごい！」なぜそれほど多いのか。これらの価値を柳田國男や伊能嘉矩らが書き残したことが大きいと佐藤さんは見ている。それを読んだ地域の人が、自分たちの暮らしと密接な関係がある大切なものだということに気づき守ってきたと分析する。

遠野遺産は、自分たちの宝物を残したい、という地域の人の意欲があれば、多くの場合登録される。有形、無形のそれらが遠野の魅力を支えている。登録されれば、遺産の保護・補修のための補助金が受けられる。気になることがあったら文化課へ問い合わせてほしい。佐藤さんが丁寧に教えてくれるはずだ。

★今月のプレゼント

このコーナーについてご感想等をお寄せいただいた方３名様へ抽選で『平成29年度版遠野遺産ガイドブック』をプレゼントします。①お名前②ご住所③電話番号④感想－を添え郵送、ファクス、メールのいずれかで下記まで送付ください。多数の応募をお待ちしております。※締切11月30日（金）

★問い合わせ：遠野市東館町3-9（遠野市立博物館内）/TEL:60-2800/FAX:62-5758/MAIL:tono100@city.tono.iwate.jp

遠野に移住し起業を目指す皆さんを紹介

遠野で起業に挑戦中！ Vol.8

「人と人をつなぐ地域〝コーディネーター〟を目指して」

起業支援・地域おこし　室井舞花（まいか）さん

平成28年から市と（株）ネクストコモンズが手がける「ローカルベンチャー事業」。遠野に移り住んだ10数人の地域資源を生かした起業・事業化や自立に向けた活動の様子、イベント情報などをお伝えします。

遠野に来る前はどんなことをしていましたか？

船で世界を一周しながら国際協力活動を行うＮＧＯ（民間団体）の職員として働いていました。約10年勤務していましたが、その間に船で世界を６周。おおよそ70カ国を訪れました。さまざまな国で交流や学びを目的としたプログラムに同行したり、航海中に船内で行う企画の運営をしていました。世界各国を訪れて活動するなかで、それぞれの国や地域がもっている文化や歴史の違い、遠く離れた土地でも同じような文化や習慣などが根付いていること知りました。それぞれの国の新たな側面に触れるうち、自分の暮らす日本の文化や生活の多様さを知りたいと思い、このプロジェクトに参画しました。

遠野に来てからどんな活動をしてきましたか？

遠野に来る前から、一貫して「人と人をつなぐ」ということをしてきました。遠野での活動も、ローカルベンチャーのメンバー同士や遠野市民、遠野に関心をもつ市外の方をつなぎ、コーディネートする役割を行っています。現在は、一日市商店街（中央通り）にある「Common Space（コモンズ・スペース）」の運営にも携わっています。

今後の目標や取り組みたいことを教えてください。

かつて、沿岸地域と内陸地域を結ぶ交易地点だった遠野が、この先も県内外との関わりをもつことができる機会のある場所になればいいなと思っています。遠野の魅力を発信しながら、コモンズ・スペースの運営などを通じて、人と人を結ぶ場所や機会を市内に増やしていきたいです。

1_室井さんも関わっている（株）ネクストコモンズが運営するコモンズ・スペース。ランチやカフェ営業のほか、イベントスペースとしても貸し出している　2_コモンズ・スペースで提供するランチメニューを試作する室井さん（左）　3_一日市商店街の方からいただいた飾り物について話をする様子

レポート　10月の活動のトピックをお伝えします

▼地域人材の日米交流プログラムで米国イノベーターが遠野に

日本ＮＰＯセンターと日米交流団体のジャパン・ソサエティーが共催する地域人材の日米交流プログラムで、農村部など地域の課題解決に挑戦する米国のイノベーター５人が10月23日に遠野を訪れました。遠野の取り組みやNext Commons Labの活動拠点を視察し、地域課題について活発に意見交換を行いました。

▼東京・銀座開催のイベントに遠野醸造のビール出品

銀座で開催されたビアフェスティバル「GINZA de FRESH HOP FEST」に、メンバーの袴田、太田、田村が設立した「遠野醸造」のビールが出品されました。

▼＜遠野小学校　全校表現活動＞遠野の里の物語にto knowプロジェクトが参加

37年目を迎えた遠野小学校全校表現活動「遠野の里の物語」に富川、及川をはじめとするto knowプロジェクトのメンバーが、携わりました。会場となった市民センター大ホールには、着物を縫い合わせて作られた舞台の背景幕が飾られました。地域の人に協力してもらい完成した背景幕は、壮観な出来栄えでした。